

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の朝礼時に理念の唱和をご利用者の前で行い、職員間で理念の共有を図っております。	母体の経営理念を基に、地域密着型事業所として目指すべきところについて職員間で話し合い、事業所独自の理念及び年間目標を作り上げ、朝礼時の唱和を利用者にも聞いてもらうことで職員全体への理解浸透を図り、管理者と職員は共有し、日々の中でも話し合う機会を持ちながらサービス向上に活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度より、ほほえみカフェ題して、毎月の第3金曜日の開催予定として、地域の方々にも参加を呼びかけております。地域の回覧板にてお知らせしております。	利用者が地域の中で安心して暮らしていくことが出来るように、との思いから自治会に加入し交流を深めている。また、事業所で行われる「ほほえみカフェ」の開催時は地域の方々からも来所してもらったり、野菜の差し入れを頂くことも日常的にあり、地域コミュニティへの継続的な参加やお祭り等、地域行事へ出向くことも多く、交流を深めながら誰もが気軽に立ち寄れる事業所を目指している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて、地域の参加者に、ご利用者の近況報告をさせて頂き、認知症への理解と支援について、話し合いが持たれています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	苑でのご利用者への関わり、近況を報告しながら、メンバーの方からのご意見を頂き、より良いサービスに繋がるように、取り組んでおります。	会議では事業所の状況報告と共にサービスの実際について報告を行い、質問や意見ももらいサービス向上に活かしている。利用者、家族の参加の予定も視野に入れつつ進めてきたが調整の難しさもあり、実際の参加も少なかったことを踏まえ、今後の課題としているところであり、会議内容について全職員への浸透に向けて伝達方法の工夫も考えているところである。	利用者との関わりや、取り組み状況を報告しながら、メンバーから率直な意見をいただき会議は進められ、いただいた意見をサービス向上に活かしている。今後は利用者、家族の参加の機会を設け、より良い会議の場となることが望まれる。会議内容についても職員全体への浸透も期待できるものとなる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	担当者には、運営推進会議に参加頂き、取り組みや実情を報告し、ご意見を頂いております。	運営推進会議に市担当者とのパイプ役として包括支援センター職員が入っており、日ごろから何でも相談できる積極的な関係性が構築されており、運営推進会議のみではなく必要時相談、助言、連絡等が行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての講習会にも参加し、理解を深め、日常的に拘束しないケアに取り組んでおります。	身体拘束についての具体的な行為や、言葉による拘束について理解を深め、「人権を守ることがケアの基本である」という認識の下、抑圧感のない自由な暮らしの支援に努めており、車イスの配置や環境整備等、気付いた時にはその場で職員への声掛けを行い改善に向けている。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についての講習会にも参加し、拘束と同様に、日常的に留意しながら取り組んでおります。	職員は虐待防止の研修会で学ぶ「対象となる行為」について、お互いに意識し合い、虐待のないケアを目指している。日々の関わりの中でも寄り添い、本人の話に耳を傾け安心して過ごしてもらえるよう支援に努めている。また、管理者は職員の様子を見ながら、声をかけたり職員の疲労が蓄積されないように、何でも相談できる雰囲気づくりに努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度は、学ぶ機会がありませんでしたが、後見制度を活用している方からの入居希望もあり、今後も継続して理解を深めるように努めていきたいと思っております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご入居に際し、契約書と重要事項説明書で詳細をお伝えし、同意を頂いております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様から頂いたご意見、ご要望は随時反映させるように努めております。苦情を頂いた場合は、運営推進会議内や、ご家族様にもご報告致しております。	毎月の事業所の会報と共に、利用者の近況報告の際や、電話、面会時などでも何でも話してもらえぬ雰囲気づくりに努めている。また、利用者同士の会話の中や入浴時の会話の中からの意見・要望も伺っている。意見・要望は職員で検討し運営に反映させている。また、苦情の場合は運営推進会議の中や事業所内で話し合いながら改善を図るようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者、ケアマネ共に現場を兼務しているため、日常的に介護職員からの意見を聞き、相談を受けたり、改善点を共に考えていくようにしております。	管理者は日常的に職員との会話の機会をもち、要望、アイデア等を聴きだすようにしている。出された要望、アイデア等は会議でも取り上げ、話し合われ運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者も現場の兼務なので、各自の精神状態、疲労の度合いを察知したり、職場内で、フォローし合える環境作りに努めております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度は、年間計画通りの研修会の参加は、残念ながら実施できない状況でした。研修会への参加は、都度、職員休憩の場に掲示して、希望時には、参加してもらえようには努めました。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の他GHと年1回、合同で交流する機会があったり、2ヶ月毎に管理者同士の意見交換をする機会があります。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居される前に、ご本人、ご家族様にご意見を頂き、ご本人が安心して生活ができるように努めていくことをお伝えしております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に、ご本人とご家族様のご意見を大切に伺いながら、ご本人の支援にはご家族様のご協力が不可欠であるとお伝えし、共にご本人を支援していく姿勢であるとお伝えしております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時に、現在のご本人の状態に応じ、受診対応をご家族様に依頼しております。連携医の往診対応や、他の医療機関に入院となるケースもあることをご説明しております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者に生き生きと共同生活を送って頂く為に、それを支える立場にある事を意識しながら、より良い関係作りに努めております。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	重度化に伴い、ご家族様が長期間、苑に通われて、日中を苑の職員と共に、ご本人の介護に携わっておられます。ケア内容もご家族様と相談しながら、より良い方向を検討、実施してきました。	毎月事業所の会報と共に利用者の様子や職員との関りを伝え安心してもらっている。行事への案内や参加を呼びかけ、家族の思いにも寄り添いながら共に本人を支える場面づくりの支援に努めている。また、利用者の重度化に伴い家族の手厚い介護協力もいただき、介護方法についても本人にとってより良い方法を相談しながら実施してきた。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	苑からの外出の機会が少なくなってきたおり、逆に地域の方々が気軽に来苑できるようにと考え、定期でのカフェの開催を今年度より実施しております。	利用者の希望を聴きながら、地域の「「コミュニティ歌の会」への参加や在宅時から利用している美容院に行き続けている利用者が居られる。また、「カフェ」開催時に来所する地域の方々との会話を楽しんでもらう機会もあり、出来る限り本人が地域住民との継続的な交流が出来るよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者の性格や特徴を把握し、集団の中で孤立せずに、その方らしく生活が営めるような支援を心がけております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去となられたとしても、これまでの関係性に変化が生じることはありません。変わりなく、誠意を込めて対応致しております。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、生活暦や趣味、嗜好の把握をしながら、要望やニーズの受容を心がけております。ニーズに対して、折り合いを持ちながら対応することが、その方らしさの尊重と考えております。	初回のアセスメント時に日常の関わりや会話を通して、その人の思いや今後の暮らし方の希望を伺っている。また把握が困難な場合は、家族から得た情報や日々の生活行動から意向の把握に努め、ミーティングで話し合うなど職員間で共有が図られている。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者の馴染み、生活暦、生活環境を考慮し、できる限りで、その方の立場になって考えるで見えてくるケア内容や、環境作りにも努めています。	本人や家族、前事業所からの情報収集を行い、これまで本人が続けてきた生活習慣や趣味等、暮らし方の把握に努め、入所後も馴染みの生活に繋げるよう個々に合わせた対応を心がけている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者を含めた背景、環境を理解、心身共に健やかに、その方が「第二の家」として、苑での生活を営む事ができるように、心がけております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画の作成は、計画担当の介護支援専門員と計画作成担当者を主に、ご本人やご家族の意向を反映したものになるように、努めております。	利用者・家族の意向を踏まえ、居室担当と計画作成者が中心となって介護計画を作成している。重度化や終末期ケアに伴い、必要に応じてモニタリング、カンファレンスを実施し速やかに対応するなど、現状に即した介護計画となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者へのケアの内容は、個別記録に残す他、ケア内容の改善や提案は、業務日誌に記入し、職員間に意見を求め、改善に繋げていけるよう実践しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	開所時から、一貫して既存のサービスにとらわれない対応力を自負しております。その姿勢に変わりはありません。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を活用し、苑でも地域に還元できるように考え、地域の集いの場となれるようにと、ほほえみカフェの定期開催を今年度より始めております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	苑の連携医との関係はもちろん、連携医以外の医師がかかりつけであっても、苑の看護師が主体となって、臨機応変に迅速で、適切な対応ができるように努めています。	協力医療機関は定めているが、利用者、家族の希望を尊重したかかりつけ医に定期受診対応している。事業所の看護師が主体となり、受診連絡票を活用し関係者間で情報の共有が図られている。往診や夜間での緊急対応など医療機関の協力もあり、安心できる体制が整っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師とは常に情報の共有を行い、ご利用者が心身共に健康でいられる環境作りを連携して行う関係にあります。緊急時はオンコールで駆けつけたり、数々の経験を元に、迅速な対応と奉仕の心で、共にご利用者を支援しております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者が入院された場合は、医療機関や、ご家族と退院の日時等の連絡を行い、退院時の状態報告についても病院関係者と連絡を取り合い、早期退院に繋がるよう努めております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期への理解が深まった今年度となり、ご家族様が自宅で介護するかのよう、毎日、苑に通われたり、地域医療の活用や、連携医からの協力体制のもと、苑での終末期をできる限りで支援できる礎を築いています。	重度化や終末期のあり方については、職員研修や勉強会を行い支援体制の共有理解を得ている。可能な限り、利用者、家族の意向を踏まえて、地域医療や協力医、看護師、職員との連携を図りながら、家族の要望に沿って安心した終末期を迎えられる支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変、事故発生に備えてのマニュアルに加え、想定される急変時に備え、慌てないで対応できるよう職員に周知して、実践しております。	急変時や事故発生時の対応としてマニュアルを整備し基本的な知識を身に付けている。AEDの講習、勉強会など、今年度できなかった訓練については来年度実施予定としている。	今後、AED使用や緊急時に関する研修で知識、技術の習得に努め、緊急時に適切な対応ができるよう、職員全体で取り組み、実践力を身につけて行くことが望まれる。
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の避難方法をフロアにも掲示しております。実践的な部分においては、訓練の回数も少ないので、より実践に近い形での訓練を今後、積み重ねていく必要があります。	今年度、年間防災計画に基づいて、地域防災訓練に参加したが、合同訓練など出来なかった部分は計画に基づき実施予定である。避難経路の確認等は近隣の協力も得て実施されている。備蓄に関しても定期的に管理されている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者と関わる際、「もし自分がこのようにされたらどうか」又は、「自分の大切な人が、このようにされたら」と考えてほしいと職員に話し、人格を尊重することの意義を実践して伝えていきます。	職員は人格を尊重する言葉かけに注意し、笑顔とさりげない言葉かけで利用者に向き合い、優しいケアに取り組んでいる。職員同士による気づきの声掛けなども行われている。また、プライバシーの確保に向け、管理者はじめ職員全員で理解を深めていく努力をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の観察から、動作や仕草など、伝えられないニーズがあつて「もしかしたら、こう思っているのでは」と考察するように努めています。それを理解した上で、さりげない環境作りや、配慮を心がけております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者と介助者の関係ではあるが、その前に人と人の間柄であり、そうなると必然的に一方的な事はできなくなると考えております。折り合いや距離感を大切にしたりした関わりを心がけております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	可能な限り、ご家族様に協力頂き、馴染みの理髪店などに行って頂くことにしています。苑でも、定期的に散髪を依頼していますし、毎月、ハンドマッサージもボランティアが来苑し、ケアを実施しております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事メニューを掲示し、ご利用者にも食事準備や、テーブル拭き等を行って頂いております。基本メニュー以外にも、メニューを変更して、希望に添うような一品を加えたりもしております。	食事が楽しめるよう、四季折々に畑で採れた野菜を取り入れる等、調理の工夫がなされている。利用者と共に献立を決めているが、時には頂いた旬な食材でのメニュー変更もある。利用者は職員と共に食事の準備や後片付けなど、できる範囲で個々の力を発揮している。食材の買い出しに近くの直売所へ出かけることもあり、食事は一日の楽しみの時間となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量を記録に残し、栄養状態を把握し、一人一人の嗜好や禁止食材、食事形態を職員間で共有しております。今年度より、調理専門の職員を配置し、バランスが取れ、充実した内容になっております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの実施は習慣化し、定着しております。その方の習慣やタイミングに合わせて頂いたり、殺菌効果のあるお茶でのがいも継続しております。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表から状況を観察して、一人一人のパターンに合わせた声がけと配慮、居室トイレの環境設定を行ったり、今できる限りの残存機能を活かした支援に努めております。	個々の排泄パターンを把握し、自尊心に配慮しながら身体状況に応じて歩行誘導、車イス対応がなされている。居室ポータブルトイレの環境設定やパットの工夫など、トイレでの排泄、リハパンへの変更などの事例もあり、自立に向けた支援と機能低下予防に取り組んでいる。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表にて、個々に排便状況を把握し、下剤の定期投与に関して、投与日と反応便の有無の確認を職員間で共有しております。個々に乳酸菌飲料等を提供して、生活習慣に合わせた取り組みも行っております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴専属の職員を週4日配置することになり、午前と午後タイミングを考慮して気分良く入浴を楽しんで頂けるように努めております。入浴専属の職員が、細やかな対応と明るい雰囲気により、入浴を拒否される方が、減少しております。	入浴専属の職員配置に伴って、午前・午後の希望に沿った時間で入浴できる設定になっている。昨年の検討事項の取り組みが目標達成に改善され、気持ちよく入浴できる配慮がされている。季節湯も工夫されており好評を得ている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜のメリハリのある生活の提供はもちろんですが、無理強いをしない、その方の生活習慣に合わせることを重視しています。夜の安眠に繋げる為の就寝介助も工夫しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の管理は、信頼の置ける苑の看護師が主体となり、個々の内服状況や内服薬の説明においても、細やかに職員に伝え、共有できるように努めてきております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	苑での職員の関わりだけでなく、ご家族様にも積極的に協力いただき、ご家族様が入居前と変わらずに、関わりを持って下さいとお伝えし、気分転換が図れるような環境作りに努めております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年度も希望あり、村上大祭のおしゃぎりのご出立を早期から見学しました。苑対応で、受診介助後に、ご家族に代わり、外食してきたりもしております。村上新発田イオンにも、以前のように出かけたいと計画しております。	生活の継続性として、歩行の方、車イスの方にも外出支援を心がけている。農家の直売所や地域行事に出かけたり、家族と食事に出かける等、外出を楽しむ機会を設けて気分転換を図っている。村上大祭には、近隣の馴染みの協力を得ながら外出支援も行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人で使用できる金銭は、苑で管理しておりますが、ご希望に応じて買い物を代行したり、一緒に出向いて、買い物をしたりも致します。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様から、ご本人に電話がきたり、ご本人からご家族へ連絡したいと申される場合等、気軽にやり取りができるようにしております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はご本人の馴染みの環境に合わせたものとし、共有スペースは広々と開放的に整えられた環境となっております。	ホール内には季節の花が飾られ、天井の梁も高く、共有スペースには畳スペースに炬燵の他、ソファの備えもあり、開放的で季節感を感じる居心地の良い空間となっている。利用者と職員は共に調理し、程良いゆったりとした空間が生活環境となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースのフロアは、食事席、リビング、畳の間があり、用途に合わせて、ご利用者がどこで過ごされるかは自由です。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、馴染みのある物や家具等を準備して頂き、その方に合わせた環境作りを心がけております。	本人・家族と相談して、使い慣れている馴染みの家具も持ち込まれ、衣類が何気なく着やすいようにハンガーに掛けられたり、日用品、家族写真、仏壇なども置かれ、利用者が家庭の延長線上として、居心地良く安心して過ごせるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その方の生活習慣や生活暦を考慮し、なるべくこれまでの生活を無理なく継続できるよう、環境設定を工夫し、さりげない介助にて、ご利用者の自立を支援できるよう心がけております。		